

2026年6月

青空機械新聞

業界ニュースとトレンド紹介

発行
第38号

インド製造業の地殻変動、日本の技術が求められる理由

日本の製造業が成熟期を迎えるなか、次なる成長の舞台として「インド」への関心がかつてないほど高まっています。2026年に入り、インドの製造業景気指数（PMI）は54.7へと上昇し、46か月連続で拡大を続けています。特筆すべきは、かつて「世界の工場」と呼ばれた新興国とは異なり、インドがAI、半導体、電気自動車（EV）、航空宇宙といった最先端分野と、それを支える鉄鋼・金属加工などの基礎工業を同時に、かつ爆発的なスピードで進化させている点です。この巨大な地殻変動は、高い技術力を誇る日本の中小鉄工所や製造業の経営者様にとって、新たな部品受注や海外進出、あるいは現地パートナーシップによる事業拡大の千載一遇の好機となり得ます。本記事では、急速に変貌を遂げるインド製造業の最新動向を網羅し、日本のものづくり企業が掴むべき未来の可能性を紐解きます。

1. 動き出す先端インフラと半導体

インド政府が推進する「インド半導体ミッション」のもと、新たに約728億円規模のプロジェクトが承認されました。これには、国内初となる窒化ガリウム（GaN）技術を用いた商業用LEDディスプレイ製造施設や、半導体パッケージング施設が含まれます。特筆すべきは、これらが主にインド国内の投資家によって資金調達され、海外企業とは技術提携の形で組んでいる点です。さらにデジタルインフラの分野では、Googleが同社として世界最大となる5年総額で約2兆3,250億円規模の「AIハブ」建設に着手しました。東京ドーム約52個分の敷地にデータセンターを展開する超大型プロジェクトは、地域のサプライチェーンを劇的に塗り替えようとしています。

2. 自動車・EVセクターの拡大

2026年度、インドの乗用車部門は前年比6%～7%の堅調な成長を維持しています。税制の合理化や利下げが追い風となり、中間層の購買力が向上しているためです。また、自動車部品の輸出額は年間約4兆6,500億円に達する見込みで、

グローバルサプライチェーンへの組み込みが加速しています。政府によるEV普及促進策の延長も市場を牽引しており、大手二輪メーカーのロイヤルエンフィールドが約360億円を投じて新工場を建設するなど、生産能力の大幅な増強が続いています。

3. 航空宇宙・防衛セクターがもたらす下請け企業の好機

中小鉄工所の皆様にとって最も注目すべき動きの一つが、航空宇宙と防衛分野の躍進です。「インド・EU航空生産協定」により、タタグループのヘリコプター組み立てや、ブラジル企業との輸送機共同開発などの民間プロジェクトが力強く動き出しています。さらに、政府が承認した約1兆8,600億円規模の「中型輸送機プログラム」は、2026年度にベンダー選定を迎え、2027年後半から本格的な生産が始まります。この巨大プロジェクトは、機体構造や複合材料に加え、高度な「特殊機械加工」や「製缶技術」の需要を爆発的に誘発します。現地の零細・中小企業へ広大なビジネスチャンスをもたらすだけでなく、高度な加工技術を持つ日本企業との協業ニーズを高める要因となっています。スペインの主要航空宇宙企業であるITPエアロも、約83億円を投じて航空機エンジン部品の製造施設を着工しました。

4. エネルギーと基盤鉄鋼の底堅い需要

エネルギー分野では、プレミアム・エナジーズが高効率太陽光モジュール施設を稼働させ、大幅な増産体制に入っています。これらすべての産業の土台となる「鉄鋼・金属セクター」は、公共インフラ投資と産業拡大に支えられ、2026年度も8%～9%という驚異的なペースで成長を続けています。ここで強調したいのは、

発行元 会社概要

会社名：株式会社青空機械（あおぞらきかい）

代表者：青木 佑典（あおき ゆうすけ）

主な事業内容：工作機械販売

住所：新潟県新潟市東区中山4-4-13-3

TEL：070-8303-6632

FAX：050-3588-8241

Email：aoki@bsmt.co.jp

鉄鋼サプライチェーン全体において、精密な機械加工、高度な検査設備、あるいは成形・製缶・加工技術に対する「持続的なニーズ」が生まれている点です。量産品だけではなく、インフラや重工業を支える高品質な特注部品や、加工精度の高い金属パーツへの需要は、まさに日本の町工場が最も得意とする領域です。

5. 化学、医薬品、そして貿易枠組みの進化

特殊化学品セクターは約10兆円規模に成長しました。背景には、世界中のバイヤーが調達先を中国から分散させる「チャイナ・プラス・ワン」戦略があります。農薬や医薬品中間体、電子材料などの分野でインドへの代替が進んでいます。また、貿易面では、2026年第1四半期の対EU輸出が18%増加しました。「インド・EU自由貿易協定」や、米国との「米印重要・新興技術イニシアチブ」の交渉も継続しており、新市場へのアクセスがさらに容易になっています。

総括：日本の鉄工所経営者が今、目を向けるべき理由

世界的なコスト圧力のなかでも、インドの産業経済は拡大を続けています。これを強力に後押ししているのが、総額約4兆1,000億円の予算を投じたインド政府の優遇制度です。これは「インド国内での生産・売上高の増加に応じて、最大6%の現金をキャッシュバックする」という画期的な仕組みです。これにより自動車や特殊鋼などの主要セクターは2桁以上の成長を記録し、新たなサプライチェーンの覇者となりつつあります。この変化は、日本の中小製造業にとって見逃せない好機です。現地企業が増産を急ぐなかで、今まさに不足しているのは、耐久性の高い金型、極めて精度の高い切削加工、高度な熱処理や製缶といった「職人技に裏打ちされた基礎技術」だからです。国内市場が縮小をたどるなか、現地の産業ネットワークとの技術提携や参入を見据え、日本の鉄工所経営者は今こそ挑戦の一步を検討すべき時が来ています。(AMTレポートより)

「狭い工場に、広いストロークを」～キタムラ機械『Mycenter-5XV』が変える、これからの大物部品加工～



キタムラ機械のMycenter-5XVは、設置面積わずか9.1㎡ながら、X1,270mm/Y710mmのクラス最大級の加工領域を誇る立形マシニングセンタです。31kWの圧倒的ハイパワーと15,000回転の高速主軸を両立し、鉄の重切削からアルミの高速仕上げまでこれ1台で完全カバー。同等ストロークの他社大型機と比べて導入しやすい、圧倒的なコストパフォーマンスも実現した大本命モデルです。

Y軸700mmクラス 同等ストローク機械のコンパクト性比較				
	キタムラ機械 Mycenter-5XV	DMG森精機 NVX 7000	ニデックオーケー VM76R	オークマ MB-66V
所要床面積 (m ²)	約 9.1 m ²	約 22.8 m ²	約 15.3 m ²	約 14.8 m ²
機械の奥行 (mm)	2,476 mm	4,512 mm	3,745 mm	3,590 mm
機械の横幅 (mm)	3,655 mm	5,057 mm	4,120 mm	4,140 mm
機械の高さ (mm)	2,800 mm	3,423 mm	3,250 mm	3,090 mm
X軸ストローク (mm)	1,270 mm	1,540 mm	1,540 mm	1,500 mm
Y軸ストローク (mm)	710 mm	760 mm	760 mm	660 mm
テーブルサイズ (mm)	1,420 × 700 mm	1,700 × 760 mm	1,540 × 760 mm	1,530 × 660 mm
最大積載質量 (kg)	1,200 kg	2,000 kg	1,500 kg	1,500 kg
主軸テーパ	#40	#50 (標準)	#50 (標準)	#40 / #50 選択
主軸モーター (kW)	31 kW	30 kW	22 kW	26 kW

機械、工場内設備に関してご質問等がございましたら、お気軽に当社までお問合せください。

株式会社青空機械
TEL : 070-8303-6632
FAX : 050-3588-8241
E-mail : aoki@bsmt.co.jp

青 空 機 械

検索

また、新規の機械購入以外にも既存設備のアフターメンテナンスについてもお手伝いをさせていただきます。
例)今は存在しないメーカーの機械修理、現在の窓口商社を変えたい等々。
まずはお気軽にご連絡ください！！

青木社長の略歴

1986年6月生まれ(満39歳)

2009年 (株)兼松KKG 入社

2010年

↓ 同社新潟営業所勤務

2016年

2016年 日鉄物産マテックス(株) 入社

2017年

↓ 日鉄物産(株) 米国法人出向

2020年

2021年 ユアサ商事(株) 入社

↓ 同社新潟支店勤務

2024年

2024年 (株)青空機械 設立